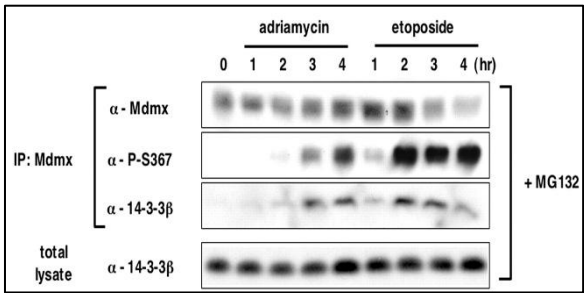


抗 MdmX (Mdm4)/Hdmx p-Ser367 抗体、マウスモノクローナル(#15)

商品コード	71-141
容量	100 µg
保存	-20°C
濃度	1 mg/ml
バッファー	PBS- with 50% glycerol
純度	ハイブリドーマ培養上清から proteinA で精製した
抗原	ヒト Mdmx タンパク質の phospho-Ser367 を含む合成ペプチド
アイソタイプ	マウス IgG2b κ
反応性	Ser367 がリン酸化されたヒト及びマウスの MdmX タンパク質
アプリケーション	1. ウェスタンブロッティング (~1 ug/ml) 2. 免疫沈降 3. ELISA 4. 免疫染色
背景	MdmX タンパク質(別名 Mdm4, HdmX)は p53 や p73 の転写活性化ドメインに結合して、これらのタンパク質に依存した細胞周期停止やアポトーシスを阻害する。MdmX は 490 アミノ酸よりなる分子量 54,864 の RING-finger ドメインと核移行シグナルを持つタンパク質であるが、SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動で 80 kDa の位置に移動する。MdmX は DNA 損傷にตอบสนองして Ser367 部位が ATM の下流にある Chk2 によってリン酸化され、14-3-3 との結合が増加して核に移行し、Mdm2 による分解を受け、その結果 p53 が活性化される(文献 1,2,3)。
Data Link	UniProtKB O15151 (MDM4_HUMAN)
画像	図 DNA 損傷にตอบสนองして MdmX の Ser367 のリン酸化が起こり、14-3-3 と結合して核に移行して分解が促進される(文献 1 を参照)。 MCF 細胞の培養液にプロテアゾーム阻害剤 MG132 を添加して前培養し、DNA 損傷剤 adriamycin 又は etoposide を加え、示された時間培養してサンプルをとり、粗抽出液を調整した。抗 MdmX 抗体で免疫沈降し、左に示された抗 MdmX p-Ser367 抗体(本製品)等を用いて Western blotting を行った。 
文献	本抗体は文献 1 に使用されている。 - Okamoto K <i>et al</i> "DNA damage-induced phosphorylation of MdmX at serine 367 activates p53 by targeting Mdm2-dependent degradation." <i>Mol Cell Biol</i> 25:9608-9620 (2005) PMID: 16227609 - Chen L <i>et al</i> "ATM and Chk2-dependent phosphorylation of MDMX contribute to p53 activation after DNA damage." <i>EMBO J</i> 24: 3411-3422 (2005) PMID: 16163388 - Pereg Y <i>et al</i> "Differential roles of ATM- and Chk2 mediated phosphorylations of HdmX in response to DNA damage." <i>Mol Cell Biol</i> 26: 6819-6831 (2006) PMID: 16943424
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	